

●京都文化博物館

前回検証結果	継 続 ・博物館として誰もが楽しめる施設を目指し、企画展の工夫や利用率が低いスペースの改善により、幅広い利活用を図り、収益性の向上を図ること。
対応・改善策実施状況、取組の成果	○企画展の工夫 ・特別展については、様々な年齢層・ターゲットに訴求する多彩な展覧会を開催した。 ・総合展示については、令和7年3月に歴史展示エリアをプロジェクトマッピング等による没入感のある展示へとリニューアルし、このエリアは借用展示を無くして撮影可能とし近年の入館者ニーズに応えた。 ・文化庁との共催による国宝・重要文化財新指定展の開催（R7～）や、府市指定文化財の合同展示など初の試みによる話題性の高い展示を行った。 ○利用率の低いスペースの改善 ・ろうじ店舗では、短期の貸し出しスペースとして活用するほか、入居店で組織する博和会と連携し京の土産品売り場の開設などの空き店舗対策、賑わい創出に取り組んでいる。 ・6階和室については、世界から30倍の応募があるフィルムメーカーズラボやヒストリカ映画祭での自由な車座スタイルでのイベント、清涼殿寝殿造再現建築を活かした現代アート等の展示など、新スタイルでの利活用に加え、修学旅行生の体験事業への短時間利用の拡大を図っている。
なお残る課題・問題点	◆インバウンド対応や若年層など新たな顧客開拓 ◆文化資料のデジタルアーカイブ化とその管理・公開のサステイナブルな運営システムの構築 ◆人件費、光熱費、輸送・造作、印刷等の諸経費の高騰への対応
府民サービス等改革検討委員会による改善意見等	□観光客にも魅力のある施設となることを目指し、更に知名度を上げてほしい。 □施設の設置目的と収益事業のバランスなども考慮しながら、施設のコンセプトや目指すべき姿を整理していく必要がある。 □京都の伝統文化の発信拠点として貴重な存在であり、施設の利活用については多くの可能性を持っており、今後の積極的な展開に期待。

京都府の検証結果及び対応方向	継 続 <改善方策> ◎施設のコンセプトや今後目指すべき姿を再整理しつつ、府民だけでなく観光客等にも魅力的な施設となるよう、より一層施設の利活用を促進すること。 <今後の対応> ○社会情勢の変化を踏まえ、施設の役割や目標についても再検討していくとともに、立地を活かしたインバウンド対応や若年層など新たな顧客を開拓し、店舗など利用率が下がっているスペースの効果的かつ効率的な利活用について引き続き検討する。
-----------------------	---